

令和元年度 学校評価書

瑞浪市立釜戸小学校

1 子ども一人一人の学力の向上

重点目標と指標	評価	目標の達成状況・取組状況・結果分析	改善策（次年度への方途）	学校関係者評価委員会から	
<p>(1) 基礎基本の定着と、どの子ども「分かった」「できた」と実感し、表現力が高まる授業をめざします</p>	<p>A</p>	<p>・漢字・算数検定を年間、各8回昼休みに実施し、自分の目標に合わせた学習時間も確保した。 ・ペア交流・グループ交流等、交流する場面を設け、自分の考えを伝え、理解を深める指導の工夫をした。 ○漢字検定や算数検定の実施が定着したことにより、児童がこつこつと学習に取り組むことができた。保護者のアンケートでは95%の保護者は取組がよいと回答している。 ○全校体制で算数科の授業改善に取り組んできたことで、児童に力が付いてきている。3年生以上のアンケートでは、昨年度課題になっていた「自分の考えを書くこと」について83%の児童ができるようになったと回答している。また、「自分の考えを伝えること」については85%の児童ができたと回答している。 ●一人一人の実態をより丁寧に把握することで、個に応じた手立ての工夫を考えていく必要がある。苦手だと思っている児童に対して支援方法を検討していく。また、自分から進んで取り組む姿勢につながる指導の在り方についても考えていきたい。</p>	<p>①検定や県 web system を活用し、個々の学力の定着を見届けると共に、子ども自身が自分の課題を理解し主体的に学習できるようにする。 ②児童主体の学習活動になるよう一人一人に教科の学び方を身に付けさせる。 ・見方や考え方につながる授業づくり ・追究を深める教師の働きかけ</p>	<p>・一人一人の教科の定着度を見届けている様子がわかる。保護者がそれを理解していることが、評価結果から読み取れる。 ・よい以上の割合が90%以上になっていて、取組はよい。20%の児童が、考えはもてるが発言できていない。今後、この児童を特に注意して授業の工夫をしてほしい。</p>	<p>A</p>
<p>(2) 学校での読書指導を充実させます</p>	<p>A</p>	<p>・一人一人の読書冊数、読書傾向をつかみ、担任が声かけや個別指導をした。 ・各教科の学習と係る図書館の本を洗い出したことで、図書館の本を使って積極的に教科の学習を進めることができた。調べ学習の仕方が定着するように、第2図書館の環境を充実させた。 ○一人一人の読書傾向をつかみ個別に指導してきたことで、目標冊数を達成することができた。特に、昨年度に比べて高学年の読書冊数に伸びが見られた。 ○どの学級も授業で図書館の本を利用して調べる学習を行うことができた。また、調べ学習を支える環境を整えたことで、児童が自分の力で学習を進められるようになってきている。 ●家庭での読書習慣を身に付けていくことが課題である。今後も家庭と連携して取り組んでいく必要がある。</p>	<p>①図書館の本と各教科の学習とのつながりを強められるように、第2図書館をさらに充実させていく。学習の足跡を残していく。 ②家庭と連携して、読書量、読書の質を高められるような取組を継続していく。</p>	<p>・調べ学習に本を利用したり、一人一人の読書傾向をつかんで指導したりすることで子ども達の読書に対する意識が高まっていると思う。 ・個人差が大きいと思うので、個々への働きかけが必要となってくる。個の興味関心を含め、実態把握が重要だと考える。カルテの作成も効果的だと思う。</p>	<p>B</p>

【学校関係者評価を受けての学校の改善策】

- ・児童主体の学習活動を目指して、既習学習や身に付けた学び方を生かした思考・表現ができる授業づくりを全職員で取り組む。
- ・学びのよさを実感できるような振り返りの場を位置付けることにより、内容面の理解だけでなく、見方や考え方にかかわるよさを実感できるようにする。
- ・調べたことや学んだこと、考えたことを表現する活動を充実させる。

2 あたたかい人間関係を築く指導や援助の充実と社会性が高まる教育の推進

重点目標と指標	評価	目標の達成状況・取組状況・結果分析	改善策（次年度への方途）	学校関係者評価委員会から	
<p>(1) 個々の思いを把握し、あたたかい人間関係をつくるよう努めます</p>	<p>①人間トラブルやその子の悩みを把握し、個別に懇談する機会を設け、早期対応、早期解決に努めます。(毎月、心の悩みアンケートを実施。)</p> <p>②互いの考えを出し合う道徳の授業を核とし、正しいことが当たり前に行える学級、いじめのない学級・学校づくりに積極的に取り組みます。(いじめに係る未解決事案0をめざします。)</p> <p>③登下校に関する情報を班長や連絡ノートを活用することで、実態を把握し、安全な登下校ができるよう指導します。</p>	<p>・毎月心の悩みアンケート及び教育相談を実施し、児童の心の把握に努めるとともに、ケース会・職員会・ブロック交流で指導方法についての確認をし、組織的に対応してきた。</p> <p>・アンケート実施後、児童と面談を行い、具体的に話を聞いて指導してきた。11月には全校一斉で教育相談週間を実施し、児童の実態把握に努めた。トラブルがあったときには、すぐに「いじめ問題対策委員会」を開き、組織的に対応することができた。</p> <p>・道徳の時間を通して自己を見つめることを大切にしてきた。</p> <p>○いじめに対する認識を深めるために研修や組織対応を大切にしてきた。また、いじめアンケートに書かれた内容について一覧表にまとめて確実に見届けられるようにしたこと、未然防止や適切な対応につながっている。いじめの未解決事案は、0の状況である。</p> <p>○子どもの変容を見届けることを大切にした授業展開を行えるように校内研修を充実し、各学級で実践することができた。</p> <p>●いじめや人間関係のトラブルの芽はたくさんある。小さなサインも見逃さないようにするために、今後も教員研修も充実させ、早期発見、早期対応に心掛けていく必要がある。</p>	<p>①思いを言葉で伝えることを継続して指導するとともに、SOSの出し方の指導についても全校体制で進める。</p> <p>②考え、議論する道徳の授業を展開することで、自分の考えや感じ方を明らかにし、日常生活につなげていく。</p> <p>③いじめのない学級・学校づくりに積極的に取り組む。作成したマニュアルの見直しも随時に行っていく。(いじめにかかわる未解決事案0をめざす。)</p>	<p>・心の悩み、いじめのトラブルは常にあると思うが、子どもの変化にすばやく対応していることが、いじめの未解決0の状況をつくっていると思う。</p> <p>・いじめをさせない事も大切だが、いじめに負けない子どもにしてほしい。</p> <p>・職員の満足度が100%は素晴らしい。今後は、保護者のニーズをどのように収集して教育活動に生かしていくか検討してほしい。</p>	A
<p>(2) 学校からの情報発信と保護者からの情報収集に努めます</p>	<p>①温かい人間関係づくりや安全指導に関わる指導内容を積極的に保護者の皆様にお知らせします。(学校での指導内容をご理解いただき、家庭や地域でもそれを大切に指導していただく。)</p> <p>②保護者や地域の皆様から学校に情報を提供していただけるよう働きかけます。(家庭や地域で心配なこと、気づいたこと、子どもの良い姿などの情報を教頭までお寄せください。(年間2回、ハッピーメッセージを募集します。))</p>	<p>・ハッピーメッセージ活動を保護者や地域の方にも呼びかけ、情報収集をした。各公民館に掲示スペースを頂き、ハッピーメッセージを募集した。</p> <p>・担任から家庭にこまめに連絡をとり、家庭と協力して子どもの見届けを行ってきた。また、必要に応じて保護者との面談の時間をくり丁寧に対応することで、子どもの育ちを支えられるように努めてきた。</p> <p>○ハッピーメッセージを地域や保護者から寄せていただくことができ、児童の自己肯定感・自己有用感を育む活動となりつつある。</p> <p>●保護者や地域の方が情報交流しやすくなるような方法を工夫し、家庭や地域と協力して児童を支えていくことができるようにしていきたい。</p>	<p>①ハッピーメッセージの取組をさらに家庭や地域も巻き込んで行えるようにし、児童の自己肯定感・自己有用感を高めていく。</p> <p>②PTA活動と協力して、家庭の教育力を高める取組を進めていく。</p>	<p>・コミュニティ・スクールの取組が重要になってくると思う。</p> <p>・保護者のアンケートで90%以上がよいと回答しているので、よいと思う。</p> <p>・ハッピーメッセージポストの設置はよかった。</p> <p>・祖父母が子どもの世話をしている家庭があるが、特に不審者の情報のメールを見ない世代にどう伝えるかが必要である。</p>	A
<p>【学校関係者評価を受けての学校の改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハッピーメッセージの取組を継続するとともに、家庭や地域にも広げる方法を工夫することで児童が認められる場を多くし、自己肯定感・自己有用感を高められるようにしていく。 ・いじめに対する教師の認識を深めるとともに、児童が自分の思いを言葉で伝えていくことができるように指導していく。 					

3 家庭や地域と連携し地域とともに歩む学校の推進

重点目標と指標	評価	目標の達成状況・取組状況・結果分析	改善策（次年度への方途）	学校関係者評価委員会から
<p>(1) 家庭学習の習慣化とゲーム等の約束づくりを働きかけます</p>	<p>①「家庭学習のすすめ」の積極的・継続的な活用と家庭教育週間の実施により、家庭学習の習慣化や読書の充実につながるよう働きかけます。 (年間3回の家庭教育週間を実施します。)</p> <p>②ゲームやPC、携帯電話等の情報モラルに係るルールづくりがしていただけるよう、PTAと連携して働きかけます。</p>	<p>・家族で約束を決めて家庭学習に取り組む家庭教育週間を年3回実施した。</p> <p>・高学年で外部講師を招聘し、情報モラル学習を進めた。</p> <p>・年間2回家族読書週間を設け、親子読書や家庭での読書習慣定着へ働きかけた。</p> <p>○家庭学習の習慣化と生活習慣の充実については、1学期末の保護者アンケートより習慣化されてきていると回答する保護者の割合が増え、93%の保護者はできていると回答している。</p> <p>○外部講師による高学年児童を対象とした情報モラル学習やPTA教育講演会によって、情報機器に関する知識が高まった。</p> <p>●家庭学習や家庭での読書については、家庭によって意識の差がある。PTA活動とも連携して、保護者に理解してもらえるよう働きかけをしていく必要がある。</p>	<p>①発達段階に応じた家庭学習の内容を検討し、主体的に学習する子を育てていく。(年間3回の家庭教育週間を実施)</p> <p>②PTAと連携し、ゲーム時間やPC使用時間、携帯電話等による情報モラル・ルールづくりについて一緒に考え、生活習慣のさらなる改善を図る。</p>	<p>・家庭学習は93%と評価が高いのはすごいことだと思う。今後も定着を望む。</p> <p>・小学生のうちに家庭学習の習慣が身に付くと中学生になってもスムーズに勉強体制に入れると思う。</p> <p>・外部講師による情報モラルについての学習会は自分達を守るためにも、今後も続けてほしい。親子での参加が大切だと思う。</p>
<p>(2) ふるさと教育を充実し地域とともにすすめる教育の実践に努めます</p>	<p>①地域にある資源を教材化し、積極的に地域に出かけたり、地域の方を先生として招く授業をしたりします。それを通して、地域のよさを知り地域を愛する心を育みます。</p> <p>②公民館・青少年育成町民会議や子供会と連携し、地域行事に主体的に子どもたちが参加できるよう協力します。</p>	<p>・保護者や祖父母の方などに、運動会前の草取りやスケート教室のボランティアをお願いすることができ、地域の方々に継続的に支えていただいた。</p> <p>・全ての学年で地域の方とかわる学習を行った。自然や歴史などとふれあえる学習を展開し、地域の先生から様々なことを学ぶことができた。</p> <p>○全ての学年が地域の方とかわる学習を実施することができ、様々なことを学ぶことができた。学習を通して、地域に愛着をもつ心が育ってきている。</p> <p>○夏祭りや文化祭では、地域に貢献することの意味を考えるよう児童に働きかけることで、主体的に取り組むことができた。高学年はボランティアの経験をし、積極的に行動できた。</p> <p>●見通しをもち、計画的に進められるような体制を整えていく必要がある。</p>	<p>①地域とともに進める教育をさらに充実させるために、組織や年間計画を整備し、見通しをもって実践を重ねていくことができるようにする。</p> <p>②地域の行事に児童が積極的に参加できるよう働きかけていく。</p>	<p>・コミュニティ・スクール化をよい機会にし、ふるさと教育、地域と共に進める教育をより充実してほしい。</p> <p>・地域と係っていくことでふるさとに対する思いが深まり、そのままの気持ちをもって大人になってほしい。今後も、地域の行事に積極的に参加してほしい。</p> <p>・幼稚園や中学生との連携した活動の在り方についても検討してほしい。</p>
<p>【学校関係者評価を受けての学校の改善策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を試行的に設置し、計画に沿って組織や人材を生かした活動を実践する。 ・地域と係る学習や地域行事への参加をすすめ、地域とともにすすめる教育を実践・充実する。 ・家庭での生活づくりを学校・家庭が連携して取り組んでいくことができるPTA活動と連携して働きかけられるようにする。 				